



第33回●シンポジウム・パークスターン2019

「ハラールとパキスタンの食文化」

◇とき 2019年11月9日(土) 10時30分～

(第1部 10:30～17:45, 第2部 18:00～)

◇ところ 日本大学文理学部3号館3408教室

◇会費 会員2,000円、一般3,000円、学生500円、懇親会費3,000円

◇定員 70名(先着順)

■第1部：講演(3号館3408教室 10:30～17:45)

主催者挨拶 今泉 濤 (公財)日本・パキスタン協会会長

来賓ご挨拶 イムティアズ・アハマド 駐日パキスタン大使

講演 「2019年のカシミール問題」 拓 徹

(大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻助教)

本講演では、今年8月初頭に再燃したいわゆる「カシミール問題」について、これまでのいきさつを概観するとともに、現在の困難な状況をできるだけ多角的に分析する。

●「ハラールとパキスタンの食文化」

●ハラールの今と未来／サイド・アクター

(日本アジアハラール協会 理事長)

世界のムスリム人口は18億人で全人口の約4分の1を占める。ハラールを認証面、法律面及びビジネス面で捉え、急速に拡大するハラール市場の今と未来を語る。

●ウルドゥー語資料にみる食文化／山根聡

(大阪大学大学院言語文化研究科教授)

19世紀半ば以降、南アジアのムスリムは自らの食文化をめぐるいくつかの記録や文学作品を残している。これらの作品を通してムスリム文化としての食文化を検討する。

●家計データから見るパキスタンの食文化／黒崎卓

(一橋大学経済研究所教授)

多様なパキスタンの食文化について、統計局が収集した大規模家計調査の個票データを使って概観します。地域差が大きいのはよく知られていますが、階層差や教育との関係も無視できません。

●「ハラール」音楽文化の一考察／村山和之

(中央大学・和光大学講師)

イスラーム社会において歌舞音楽をハラールとするかハラームとするかは永遠のテーマである。イスラーム共和国パキスタンの豊かで多様な音楽文化をどう捉えればよいのだろうか。

●パネル・ディスカッション(司会／丸山純)

■第2部：懇親会(第2体育館地下1F 福松食堂 18:00～)

立食にて歓談をお楽しみ下さい。軽食、飲み物及び恒例の大山ケーキをご用意しております。

◇お申込み方法

裏面のお申込みの内容を、お電話、Fax、メールまたはご郵送にてご連絡下さい。

公益財団法人 日本・パキスタン協会

Tel:03-5327-3588 Fax:03-5327-3598

e-mail: kyokai@japan-pakistan.org

住所: 〒166-0002

東京都杉並区高円寺北 2-29-14-202

◇お振り込み先

三菱UFJ銀行 青山通支店 <普> No.0038524

みずほ銀行 渋谷中央支店 <普> No.1731897

三井住友銀行 青山支店 <普> No.5218954

郵便振替口座 00100-7-20299

※当日は混雑が予想されます。事前のお振り込みにご協力をお願い申し上げます。

<アクセス>



日本大学文理学部 <http://www.chs.nihon-u.ac.jp>

住所: 東京都世田谷区桜上水 3-25-40

電話: 03-3329-1151 (代)

最寄り駅: 京王線「下高井戸」駅、「桜上水」駅

シンポジウム・パークスターン 2019 申込用紙

①お名前 _____

②お電話番号 _____

③メール _____

④懇親会 参加する 参加しない

⑤会費 お振込（お振込先： _____） 当日お支払予定

⑥このチラシはどちらでご覧になりましたか

(_____)

ご記入いただいた内容は、当協会からのご連絡やご案内の送付のみに利用させていただきます。

日本大学文理学部キャンパスマップ

